

ご感想、情報は・Eメール life@sankei.co.jp
・FAX 03-3270-2424

Life 社会保障

糖尿病など慢性疾患対象

パソコンやスマートフォンなどを使って、医師の診察を受ける「オンライン診療」に4月から、健康保険が適用される。慢性疾患などで継続的な治療を受けており、状態が安定している患者などが対象。「対面」が当たり前だった診察の風景が、そろりと変わりそうだ。

(佐藤好美)

医療・介護 30年度 報酬改定

病院や診療所などが、治療や薬の処方への対価として受け取る「診療報酬」に今年4月から、「オンライン診療料」(月に700円・患者負担は1〜3割)と「オンライン医学管理料」(月に1千円・同)などが新設される。

原則はあくまでも対面診療で、オンライン診療は補充的な位置づけ。このため、初診の患者は対象外で、3カ月に1回以上は対面診療を組み合わせたことが要件。

保険適用の「第一歩」とあって、対象患者を限定した。糖尿病などの生活習慣病をはじめ、てんかん、認知症などで継続した治療が必要な患者。治療を継続し、重度化を防ぐことが目的だ。がんや難病などで在宅療養をする患者も対象で、きめ細かい対

オンライン診療に保険適用

通院の負担軽減 治療継続で重度化を防止

応も可能になる。医療機関にも要件を設け、①おおよそ30分程度で緊急の対面診療ができる②診療に占めるオンライン診療の割合が一定以下 などとした。遠隔地の患者を集めたり、オンライン診療ばかりを行ったりで

千葉県茂原市に住む小島恵さん(75)＝仮名＝の息子(47)は、生まれつき重度の心身障害とてんかんがあり、常に数種類の薬を服用する。20年来のかかりつけ医が一昨年、オンライン診療を開始。以来、3カ月に1回はクリニックに通院し、残りの2カ月は月に1回、オンラインで診療を受ける。

事前に診療時間を予約。時間になったら自宅のパソコンを立ち上げ、診療所にいる医師から「変わりないですか」などと診察を受ける。処方箋は郵送で受け取り、費用はクレジットカード決済だ。

小島さんは「息子をパソコンの前まで連れていくだけで診察を受けられる。通う時間や待つ時間がないのは本当に助かる」と喜ぶ。息子は座ることはできないが、座った姿勢を保つことができない。抱き上げられる体重・体格ではないので、通院するときは男性介護職を頼み、2人がかりで抱えるようにして連れて行く。待ち時間は車椅子に座らせ、安全ベルトをするので本人の負担も大きい。「本人も楽になったと思う。特にインフルエンザがはやるこの時期は、感染すると、どうしても重症化する。」



「オンライン診療は、長期のコントロールが必要で、通院が困難だという人にメリットがある」と話す黒木院長。千葉県いすみ市の外房こどもクリニック

きない仕組みだ。情報通信機器を使った診療は、厚生労働省が平成27年に事実上の解禁通知を出してから広がった。だが、通信機器を使った診療報酬にはこれまで、電話を使った再診に適用されていた「電話再診料」の項目がなく、報酬の低さが広がっていなかった。

診療の柱となれるか

診療報酬について審議する厚生労働大臣の諮問機関「中央社会保険医療協議会」(中医協)では当初、オンライン診療の使い道に挙がっていたのは、糖尿病や高脂血症などの重度化予防だ。継続的な管理が最大の鍵だが、患者は普通に日常生活を送っており、治療から「脱落」する人が少なくない。オンライン診療を組み合わせることで治療を継続し、効果を上げる狙いだ。

一方、オンライン診療は「訪問診療」にも威力を発揮する。患者の状態が変化するなかで医師の顔を見て相談できれば、家族の不安も軽減されるし、医師側の訪問の負担も軽くなる。外来も訪問もする「かかりつけ医」にとってもサポートになる。

オンライン診療の歴史は浅く、使われ方次第ではリスクもあるが、うまく育てば、今後「外来」「入院」「訪問」に並ぶ、診療の柱になる可能性もある。

オンライン診療のシステムを提供する民間会社の一つ「モデル」の豊田剛一郎代表は自身も医師。この間、首相官邸でデモンストラクションを行うなど、技術革新を牽引してきた。勤務医だったころ、てんかんの患者の通院が途切れ、ある日、発作で運び込まれる経験を重ねた。患者の状態が良いときは「3時間待ちの3分診療」でない、手軽な受診方法が必要と思ったという。

「病気の対応はどんどん、発症予防などの事前対応に移ってきている。患者が元気が多いことが多いだけに、それに合うカジュアルな診療のスタイルが必要。手軽に受診できるようにすることで、治療を継続する『文化』が作れる」と話している。

オンライン診療も終わって、いよいよ私の引越しが秒読み状態。2日後にはトラックが来てしまおうと思うと、落ち着けない。

「節約コース」を選んだせいで梱包も不用品の処分も掃除も、全部お客さまが、と書いてある。少し後悔しつつ、仕事を終えた夜ふけに作業をしようとしたら、リビングの蛍光灯が突然、切れた。

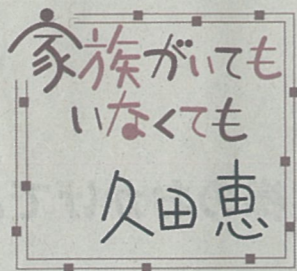
LED照明にしたはずなのに、なぜ切れる?と思ったけれど、急ぎ、他の部屋の照明器具と交換することにした。けれど、脚立がない。

致し方なく、机の上に椅子を置き、その上に乗って見た。次は、その椅子から立ち上がればいいのだが、これが問題だ。バランスを崩したら、

墜落して頭を打ちそう。でも、オンラインビックのテレビも、ある選手が「人にできることが、あなたにできないことはない」と言われて、頑張ったんです」と話すのを聞いたばかりだった。

それで、椅子が机の上にあると思うから怖いのだ、床にある椅子の上で立ち上がるのだと思えばできるはず、と思うことにした。

慎重にゆっくり立ち上がって、なんとか蛍光灯に触れたものの、外し方を忘れていて、試行錯誤の上、やっとの思いでカバーを外してみた。LEDではなかった。



▶ 536

引越してきたとき、各部屋の照明器具を順次とりつけていたら、予算がなくなっ

た。途中で安い蛍光灯にしたのだ。しかも2カ所必要なのに1つだけにして、そのまま4年半も放置していたの



イラスト・ヨツモトユキ

なんのためらいもなく、椅子に乗って、てきぱきと作業

をした4年半前の自分が今は信じられない。照明器具の取り換え一つにこれほどの悪戦苦闘をするようになってしまったとは、情けない。

そんなことを思い、業を終え慎重に椅子を降ると、ふいに、こけた! 机の角に腰を打ち、涙がにじんだ。油断つとしたときが一番だった。

思えば、先輩世代「引越は、70歳せなきゃ駄目よ」とわれてきた。その言葉染みる。体験を通して人は己の老年期を受けいけるのかも。

ふっけた腰をさす。自分で自分を慰めた。ひとこまだった。(ノンフィクション)

体験し受け入れる老化

特集 よくわかる お墓の引越